

WebSphere Application Server V8.5 Liberty プロファイル版

修正パッケージ(Fix Pack) 適用ガイド

V1.0

2012 年 11 月
日本アイ・ビー・エム株式会社
ソフトウェア事業

目次

1. はじめに.....	2
2. IBM Installation Manager の更新.....	4
3. Fix Pack のインストール方法①	8
4. Fix Pack のインストール方法②	14
5. Fix Pack のインストール方法③	25
6. Fix Pack インストール後の確認	29
7. Fix Pack のアンインストール方法①	30
8. Fix Pack のアンインストール方法②	36
9. Fix Pack アンインストール後の確認	37

変更履歴

2012/11/26	初版
2016/01/22	Fix Pack インストール時の注意事項として、Java セキュリティ・ポリシー・ファイルのバックアップを追加
2016/04/13	アーカイブ形式のインストールにおいて、上書きインストールが可能なように読み取れる部分を修正(アーカイブ形式のインストールでは、上書きインストールはできません)

1. はじめに

WebSphere Application Server (以下WAS) では、定期的に修正パッケージ (Fix) を、以下の製品サポート Web サイトで公開しています。

<http://www.ibm.com/software/webervers/appserv/was/support/>

本ガイドは、WAS V8.5の修正パッケージ (Fix Pack) の導入を手順書化したものです。

1-a. WAS V8.5 のバージョン表記について

WAS V8.5では、バージョンを「**V8. x. y. z**」というように、4つの数字の組み合わせで表記します。

各数字は、下表のFixレベルを表します。また、単体の個別Fixのことを単に“Fix”、あるいは“Interim Fix”、“iFix”と呼びます。

Fixレベル	表記例	修正 (Fix) の内容
Release 「x」	V8.5	大きな機能の追加や変更。 (リリースアップにはパスポート・アドバンテージ契約が必要)
Refresh Pack 「y」	N/A	機能の追加や前提条件の更新を含み、その以前に出ている Refresh Packを含んだ修正の集合。(V5.0/V5.1では、Fix Packと呼ばれていたもの。) V6.1からRefresh Packはリリースされなくなりました。
Fix Pack 「z」	V8.5.0.1	複数のFixがまとめて定期的に公開されたもの。その以前に出ているFix Packを含みます。
Fix	V8.5.0.1 + PQ00000	「PQ00000」や「PK00000」などの個別のFix。 “Interim Fix”、“iFix”とも表記されます。

例えば、V8.5.0.1とは、V8.5を導入後、Fix Pack1を適用した環境のことを指します。

本ガイドでは、“Fix Pack”の適用手順について記述します。

1-b. 本ガイドで修正パッケージを適用するにあたって

WebSphere Application Server (以下WAS) V8.xからは、WASのインストールとFixの導入がIBM Installation Manager というツールに一元化されました。WASのインストールだけでなく、Fixを導入したり、既に導入済みのFixの情報を参照、あるいは削除したりする事が可能です。

WAS LibertyプロファイルのFix適用の方法は、WAS Liberty プロファイルを導入した方法によって異なります。

IBM Installation Managerを使用し、<WAS Root>/wlpディレクトリー以下に導入されたWAS Liberty プロファイルを更新するには、おなじくIBM Installation Managerを使用します。IBM Installation Managerは、WASのインストールだけでなく、Fixを導入したり、既に導入済みのFixの情報を参照、あるいは削除したりする事が可

能です。この方法については2～4章を参照してください。

Jarアーカイブファイルを利用して、手動で(または開発者ツールを使用して)導入をおこなった場合は、おなじくアーカイブファイルを使用して更新をおこないます。この方法については5章を参照してください。

但し、適用するFixの前提条件等もありますので、適用時には各FixのReadmeもご参照の上、適用をお願いします。

本文中で使用されている<Liberty_Root>とは、既存Liberty プロファイルのインストール・ディレクトリーのことであり、デフォルトではJARファイルのダウンロード・ディレクトリーとなります。また<Liberty_Root+>とは、新しくインストールしたLiberty プロファイルのインストール・ディレクトリーのことを指します。

また<IM_DATA_ROOT>とは、IBM Installation Managerのアプリケーション・データ・ロケーションのことであり、各プラットフォームのデフォルトは、以下のディレクトリーとなります。

[AIX/Linux/Solaris/HP-UX 環境]	: /var/ibm/InstallationManager
[Windows XP/2003 環境]	: C:¥Documents and Settings¥All Users¥Application Data¥IBM¥Installation Manager
[Windows 7 環境]	: C:¥ProgramData¥IBM¥Installation Manager
[Windows 2008 環境]	:
— 管理ユーザーを選択してインストールした場合 :	
	C:¥ProgramData¥IBM¥Installation Manager
— 単一ユーザーを選択してインストールした場合 :	
	C:¥Users¥User名¥AppData¥Roaming¥IBM¥Installation Manager

各コマンドやツールの詳細な情報については、適用するFixのReadmeや、Infocenterを合わせてご参照ください。

また、本文中のURLおよびWebサイトの画面イメージは、2012年11月現在のものであり、将来変更される場合がありますのでご注意ください。

2. IBM Installation Manager の更新

Fix Pack の導入にあたり、まず IBM Installation Manager の更新を求められる場合があります。

1. 導入済みの IBM Installation Manager を起動します。IBMIM.sh(exe)コマンドを実行し、IBM Installation Manager を起動します。

■ Unix・Linux の場合

```
# cd <IBM Installation Manager のインストール・ディレクトリー>/eclipse  
# ./IBMIM.sh
```

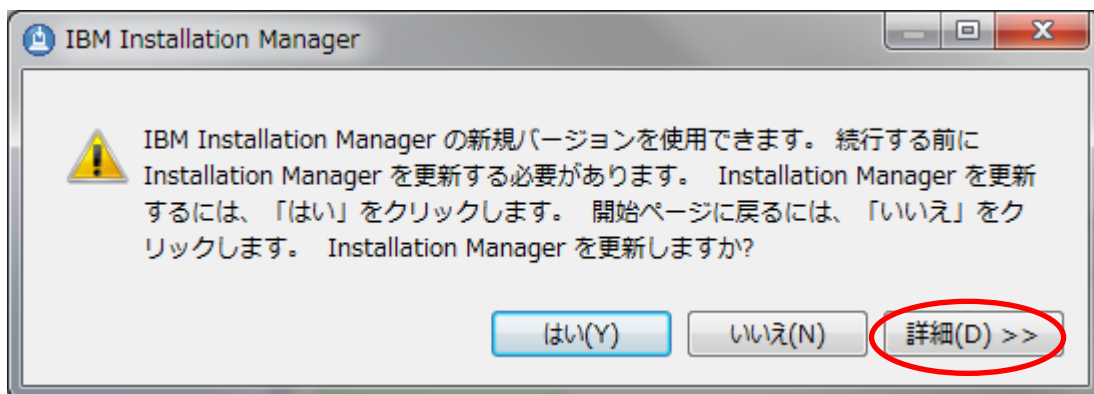
■ Windows の場合

```
> cd <IBM Installation Manager のインストール・ディレクトリー>\eclipse  
> IBMIM.exe
```

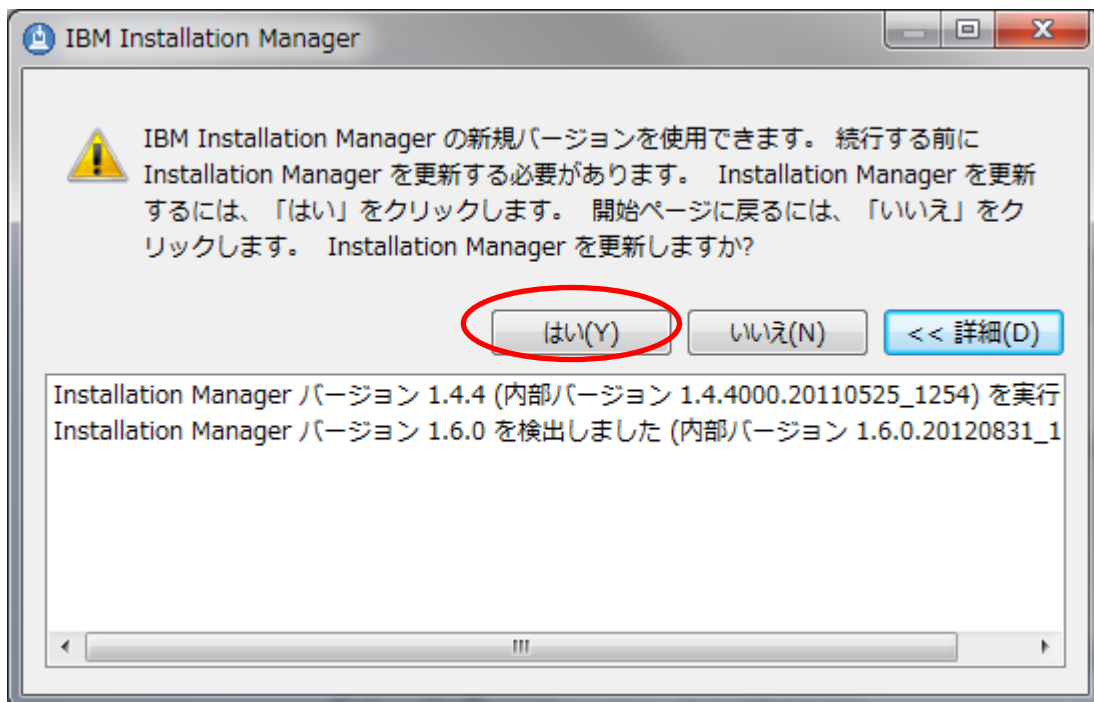
- 「スタート」>「すべてのプログラム」>「IBM Installation Manager」>「IBM Installation Manager」から起動、またはインストール・ディレクトリーにある exe クリックによる起動も可能です。



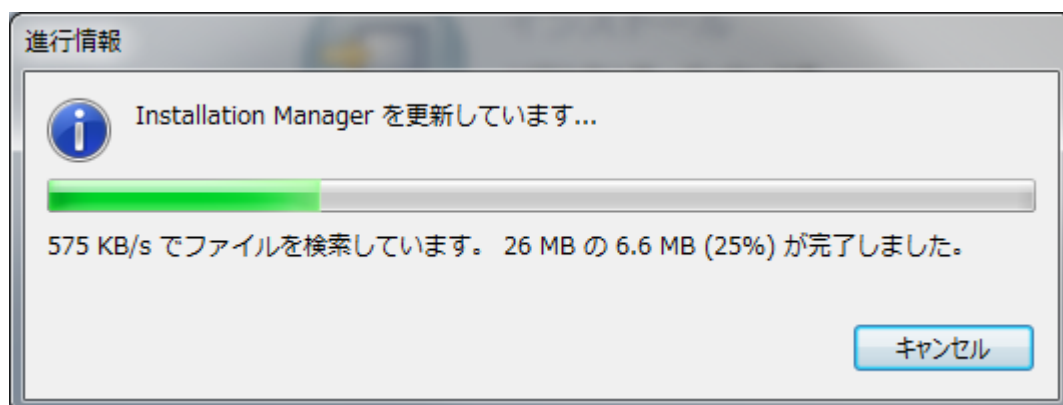
2. 「更新」ボタンを押すと、利用可能な IBM Installation Manager のアップデートがある場合にダイアログボックスが表示されます。 詳細を押すと、現在実行しているバージョンと利用可能なバージョンが表示されます。



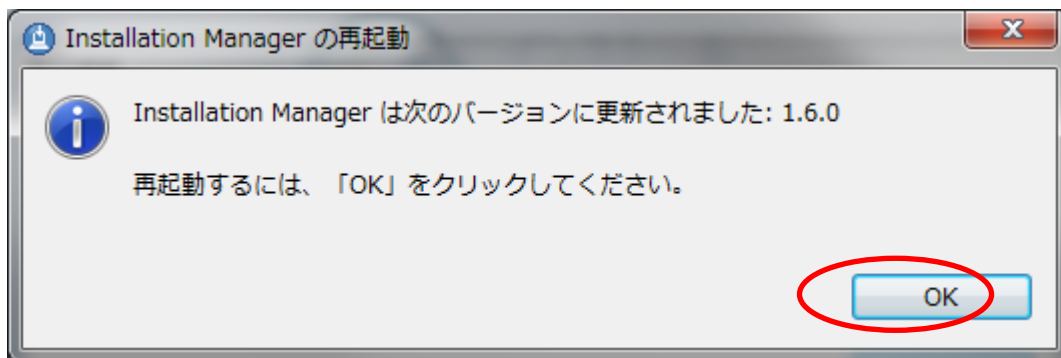
3. バージョンを確認して、「はい」をクリックします。



4. 更新が開始されます。



5. 更新の完了後、再起動をします。「OK」をクリックします。



オフラインのローカルで更新する場合の手順は以下のとおりです。

Fix Central から IBM Installation Manager の Fix Pack をダウンロードします。

6. Zip 形式の Fix Pack を解凍して、中に repository.config が存在することを確認します。
7. IBM Installation Manager を起動して、「設定」から「リポジトリの追加」をクリックして repository.config を指定します。手順 4 を参考にしてください。
8. 最初の画面に戻り、「更新」をクリックして更新を開始します。

詳細は以下を参照してください。

<http://www.ibm.com/support/docview.wss?uid=swg24023498>

http://public.dhe.ibm.com/software/dw/jp/rational/library/common/install/im_usageguide/im_usageguide.pdf

3. Fix Pack のインストール方法①

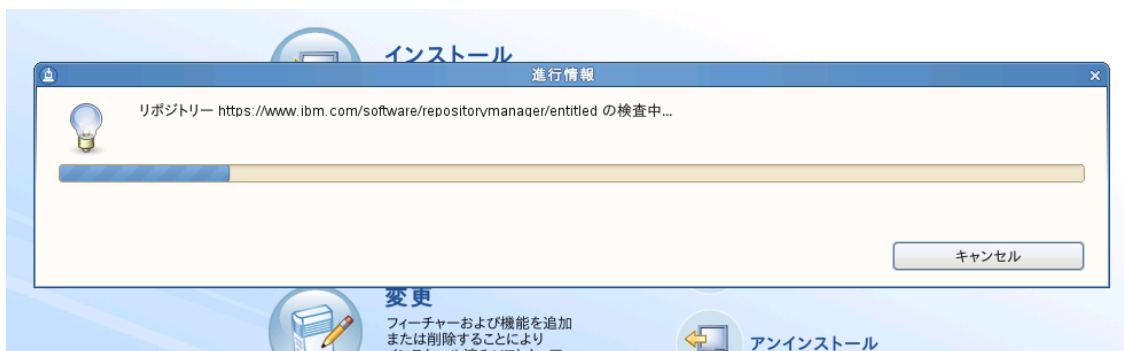
Liberty プロファイルへの Fix Pack 適用にはウィザード(GUI)モードとサイレント (CUI) モードとアーカイブ形式があります。本ガイドでは、GUI モードとアーカイブ形式のインストール手順を示します。

ここでは IBM Installation Manager から、Web ベースで IBM のリポジトリにアクセスして Fix Pack を適用する手順を紹介します。

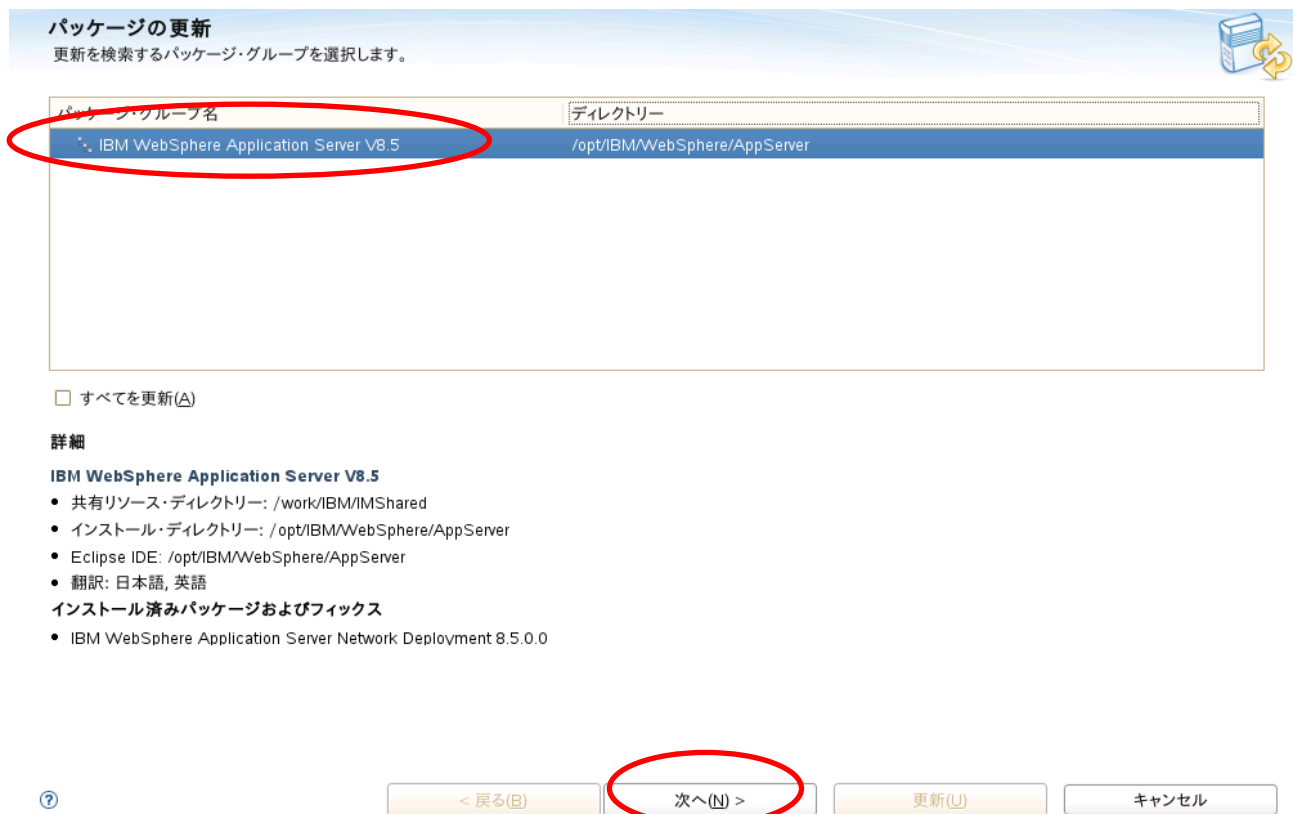
●インストールを行う前の注意事項/推奨事項

1. 導入前にすべての WAS, IHS が停止していることを確認してください。
また、WAS 以外で稼働している java プロセスについても停止する必要があります。
2. AIX 環境では不要なライブラリをアンロードするため、root で slibclean を実行してください。
3. ファイルシステムのスペースに不足がないことを確認してください。
 - ・ [AIX] : /tmp、/usr に各々約 600M
 - ・ [Linux および AIX 以外の UNIX ベースのプラットフォーム] : /tmp、/opt に各々約 600M
(上記のプラットフォームにおける /usr、/opt 配下に必要とされるスペースは WAS のインストール・ディレクトリーに依存します。インストール・ディレクトリーを変更している場合は、そのファイルシステムのスペースを確保してください。)
 - ・ [Windows] : インストールを実行するディスクに約 1.2GB
 - ・ バックアップ・ファイル用として、バックアップ・ディレクトリーに 1~1.7GB (Fix Pack と同じサイズ)
4. IBM Java SDK の Fix Pack は、制限のないポリシー・ファイルと cacerts ファイルを上書きする可能性があります。Fix Pack を適用する前に、制限のないポリシー・ファイルと cacerts ファイルをバックアップして、これらのファイルを Fix Pack の適用後に再配置します。これらのファイルは <WAS_ROOT>%java%re%lib%security ディレクトリーにあります。
5. テスト環境下での適用確認を 実行してからの本番環境での適用を推奨します。
6. Fix 適用前に Back-up などを取り、問題発生時にすばやく対処できるよう対策をとることを推奨します。

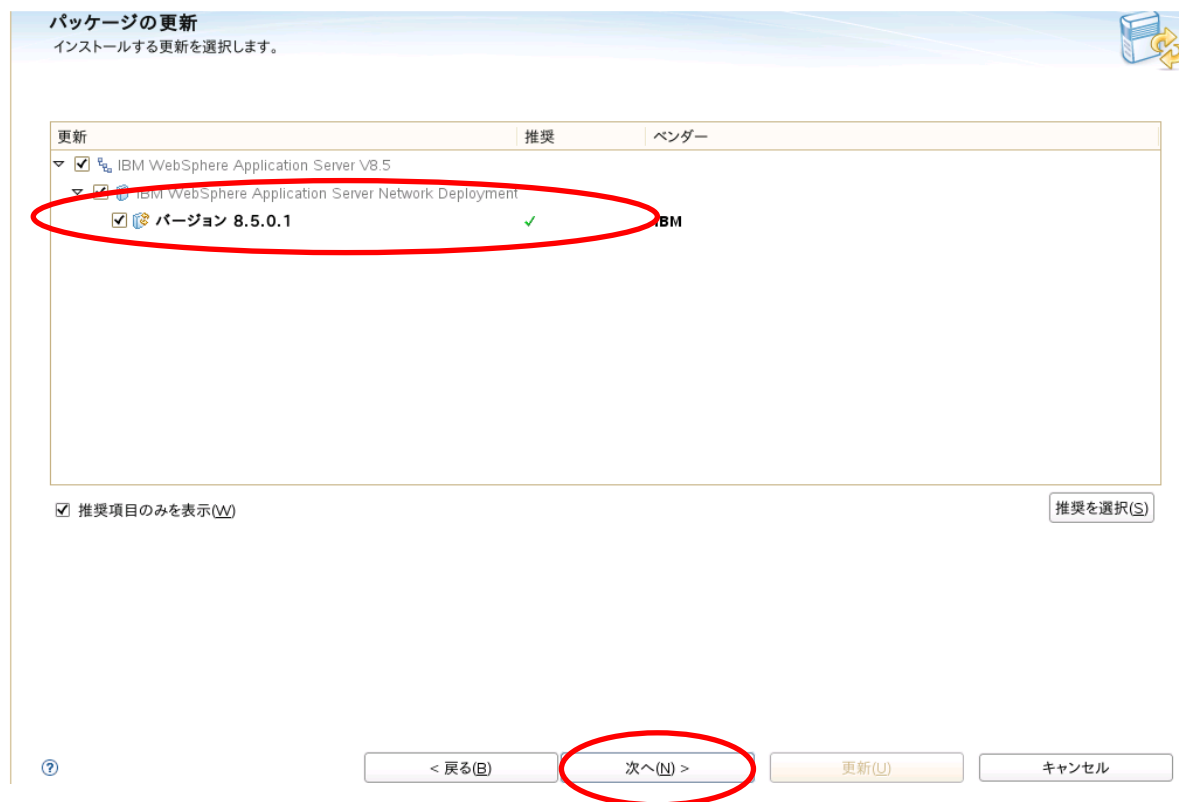
1. 最初の画面に戻ります。「更新」をクリックします。



WAS に Fix Pack を導入します。「IBM WebSphere Application Server V8.5」を選択して、「次へ」をクリックします。



2. ここでは、「IBM WebSphere Application Server Network Deployment」の「バージョン 8.5.0.1」を選択して、「次へ」をクリックします。



3. 「使用条件の条項に同意します」にチェックを入れて、「次へ」をクリックします。

パッケージの更新
以下の使用条件をよくお読みください。

パッケージの更新 更新 ライセンス フィーチャー 要約

プログラムのご使用条件

第 1 章 - 共通条項

お客様がライセンス（使用許諾を受けた個人、会社、その他の法人）として本件プログラムをダウンロード、導入、複製、アクセス、「同意」ボタンをクリック、または使用することにより、本「プログラムのご使用条件」（以下「本使用条件」といいます。）に同意したものと見なされます。お客様がライセンスの代行者として本使用条件に同意する場合、お客様は、ライセンスに本使用条件を遵守させる全権限を有していることを表明および保証いただくものとします。本使用条件に同意いただけない場合、

* お客様は、本件プログラムのダウンロード、導入、複製、アクセス、「同意」ボタンのクリック、または使用することなく、かつ

* 直ちに未使用の記録媒体、文書およびライセンス証書をその調達元に返却することにより、これと引き換えに支払済料金の返金を受けることができます。本件プログラムをダウンロードした場合には、本件プログラムおよびそのすべての複製物を破棄してください。

1. 定義

使用許諾範囲 - ライセンシーが本件プログラムを実行または稼働することを許諾された特定の範囲をいいます。かかる範囲は、ユーザーの数、MSU (Millions of Service Units)、プロセッサ・バリュー・ユニット（以下「PVU」といいます。）、または IBM が特定するその他の使用許諾の範囲により規定されます。

IBM - International Business Machines Corporation またはその子会社をいいます。

ライセンス情報（以下「LI」といいます。） - 本件プログラムに固有の情報および追加条件を提供する文章をいいます。本件プログラムの LI は、www.ibm.com/software/sla から入手することができます。LI は本件プログラムのディレクトリー内で（システム・コマンドなどを使用して確認します。）または本件プログラムに含まれている小冊子として提供される場合があります。

本件プログラム - 原本およびそのすべての複製物（全体複製か部分複製かを問いません。）を含めて、次のものをいいます。1) 機械で読み取りうる形の命令およびデータ、2) その構成要素、ファイルおよびモジュール、3) 視覚コンテンツ（イメージ、テキスト、録音、画像など）、ならびに 4) 関連するライセンス資料（キーおよび付属文書など）。

ライセンス証書（以下「PoE」といいます。） - ライセンシーの使用許諾範囲の証明をいいます。また、PoE は、本件プログラムに対する保証サービス、将来における本件プログラムの更新料金（発表される場合）または販売促進用の特別な措置（提供される場合）等を受けるライセンスの資格を確認し証明するものです。IBM がライセンスに PoE を発行しない場合、IBM は、ライセンスが本件プログラムを調達した調達元（IBM または IBM ビジネス・パートナー）が発行した領収書原票、その他の販売記録を PoE とみなす場合があります。その場合、本件プログラムの名称と取得した使用許諾範囲が明記されていることが前提となります。

☒ 使用条件の条項に同意します(A) 日本語 すべて印刷(P)...

☐ 使用条件の条項に同意しません(D)

< 戻る(B) 次へ(N) > 更新(U) キャンセル

4. Fix Pack を適用するフィーチャーを選択します。ここでは Liberty プロファイルを選択して、「次へ」をクリックします。

パッケージの更新
インストールするフィーチャーを選択します。

パッケージの更新 更新 ライセンス フィーチャー 要約

フィーチャー

IBM WebSphere Application Server Network Deployment 8.5.0.1

WebSphere Application Server Full Profile

☐ EJB 3.0 より前のモジュール用の EJBDeploy ツール

スタンドアロンのシン・クライアント、リソース・アダプター、および組み込み可能コンテナ

☐ スタンドアロンのシン・クライアントおよびリソース・アダプター

☐ 組み込み可能 EJB コンテナ

☐ サンプル・アダプター・ジョブ

☒ WebSphere Application Server Liberty Profile

IBM WebSphere SDK for Java Technology Edition 6

☐ IBM 32-bit WebSphere SDK for Java

☐ 依存関係の表示(S)

従属関係のため Installation Manager によって選択

すべて展開(E) すべて省略表示(C) 復元(R)

詳細

IBM WebSphere Application Server Network Deployment 8.5.0.1

IBM WebSphere Application Server Network Deployment は、動的 e-business 用のエンタープライズ Web サービス・ソリューションのデプロイメントに使用するための柔軟なプラットフォーム。Enterprise Edition (Java EE) 機能のアプリケーション・サーバー。本製品は、拡張 Web サービスおよびクラウド化機能を提供する。

ディスク・スペース情報

	ボリューム	必須	一時	合計	選択可能
共有リソース・エリア	/work	20.5 KB	564.56 MB	564.58 MB	6.66 GB
インストール・ディレクトリー	/	769.74 MB		769.74 MB	2.80 GB

< 戻る(B) 次へ(N) > 更新(U) キャンセル

5. 更新内容が表示されます。内容を確認して、「更新」をクリックします。

パッケージの更新

要約情報を確認してください。

パッケージの更新

更新

ライセンス

フィーチャー

要約

ターゲット・ロケーション

パッケージ・グループ名: IBM WebSphere Application Server V8.5

インストール・ディレクトリー: /opt/IBM/WebSphere/AppServer

共有リソース・ディレクトリー: /work/IBM/IMShared

更新

インストールするフィーチャー

削除するフィーチャー

▼ IBM WebSphere Application Server Network Deployment 8.5.0.1

WebSphere Application Server Full Profile

WebSphere Application Server Liberty Profile

▼ IBM WebSphere SDK for Java Technology Edition 6

IBM 64-bit WebSphere SDK for Java

ディスク・スペース情報

合計使用可能スペース

2.80 GB

合計ダウンロード・サイズ: 564.58 MB

合計インストール・サイズ: 1.30 GB

リポジトリ情報

?

< 戻る(B)

次へ(N) >

更新(U)

キャンセル

6. Fix Pack の適用が開始されます。

更新

インストールするフィーチャー

削除するフィーチャー

▼ IBM WebSphere Application Server Network Deployment 8.5.0.1

WebSphere Application Server Full Profile

WebSphere Application Server Liberty Profile

▼ IBM WebSphere SDK for Java Technology Edition 6

IBM 64-bit WebSphere SDK for Java

ディスク・スペース情報

合計使用可能スペース

2.80 GB

合計ダウンロード・サイズ: 564.58 MB

合計インストール・サイズ: 1.30 GB

リポジトリ情報

更新中。

ダウンロードの一時停止(P)

キャンセル(C)

7. Liberty プロファイルへの Fix Pack 適用が完了しました。「終了」をクリックします。



以上で IBM Installation Manager を使用した Liberty プロファイルへの Fix Pack 適用は完了です。

4. Fix Pack のインストール方法②

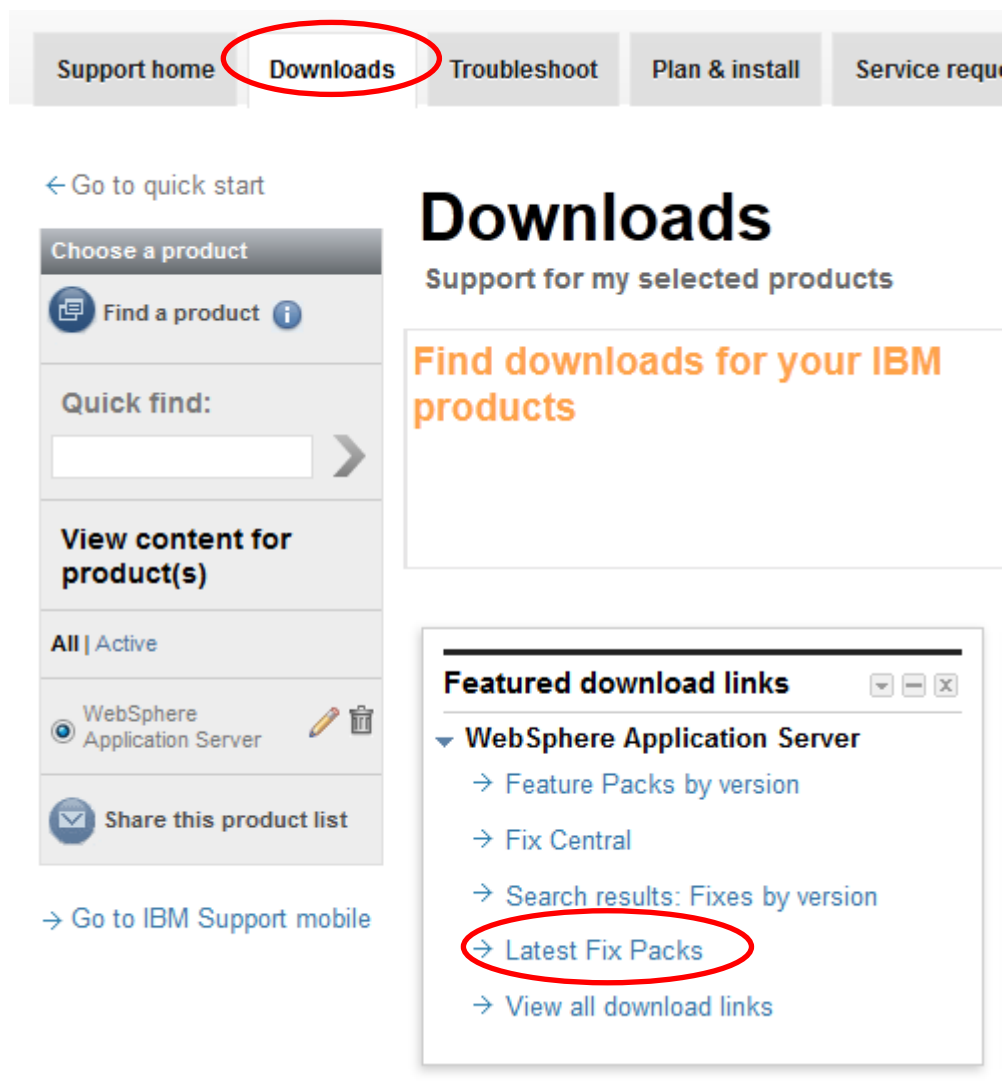
ここでは IBM Installation Manager から、Fix Central からローカルにダウンロード済みの Fix Pack を適用する手順を紹介します。

4-a. Fix Pack のダウンロード

Fix Pack は、製品サポート・サイトよりダウンロードして導入します。ダウンロードには IBM ID が必要です。

1. 製品のサポート・サイトで、最新 Fix Packs を調べます。下記 Web サイトにアクセスし、「Downloads」の「Latest Fix Packs」をクリックしてください。

https://www-947.ibm.com/support/entry/myportal/overview/software/websphere/websphere_application_server



各バージョンの最新 Fix 情報一覧が表示されます。「Version 8.5.0.1」をクリックすると、ダウンロードページに移動します。

Latest fix packs for WebSphere Application Server

Product documentation

Abstract

A list of the latest available fix packs for IBM® WebSphere® Application Server releases (Base, Express, Network Deployment).

Fix packs for IBM HTTP Server V7.0, 6.1, and V6.0 are distributed with most corresponding WebSphere Application Server V7.0, 6.1, and V6.0 releases. For the latest IBM HTTP Server fix pack, also view the related information link below.

Content

Latest Fix Pack for WebSphere Application Server V8.5

→ [8.5.0.1](#)

適用する Fix Pack をダウンロードします。使用 OS に対応した Fix Pack をクリックするとダウンロードページに進みます。「今すぐダウンロード」をクリックします。V7.0 では、Java、AppServer、Client、Plug-in、IHS と分かれていましたが、V8.x よりプラットフォームに応じてまとめて提供されるようになりました。ダウンロード対象は、WAS 本体用の Fix Pack である、8.5.0-WAS-WAS-FP0000001-part1.zip、part2 になります。この中に Liberty プロファイルに対する Fix Pack が含まれます。

Download package

Platform	Download	Download Links (Fix Central)
Distributed	Application Server V8.5.0.1 local repository ZIP Files containing Base, Express, ND, NDDMZ, Java SDK	8.5.0-WAS-WAS-FP0000001-part1.zip 8.5.0-WAS-WAS-FP0000001-part2.zip
Distributed	Supplements V8.5.0.1 local repository ZIP Files containing Application Client, Web server plug-ins, Pluggable Application Client, IBM HTTP Server, Java SDK	8.5.0-WAS-WASSupplements-FP0000001-part1.zip 8.5.0-WAS-WASSupplements-FP0000001-part2.zip
Distributed	WebSphere Customization Toolbox V8.5.0.1 local repository ZIP File	8.5.0-WAS-WCT-FP0000001.zip
IBM i	IBM Web Enablement for IBM i V8.5.0.1 local repository ZIP File	8.5.0-WAS-WEBENAB-FP0000001.zip
zOS	IBM HTTP Server for zOS V8.5.0.1 local repository ZIP File	8.5.0-WAS-IHS-OS390-FP0000001.zip
zOS	Web server plug-ins for zOS V8.5.0.1 local repository ZIP File	8.5.0-WAS-PLG-OS390-FP0000001.zip
zOS	Application Server for zOS V8.5.0.1 local repository ZIP File	8.5.0-WAS-WAS-OS390-FP0000001.zip
All Platforms	IBM WebSphere SDK Java Technology Edition (Optional) V7.0.2.0	7.0.2.0-WAS-IBMWASJAVA-part1.zip 7.0.2.0-WAS-IBMWASJAVA-part2.zip

☐ 21. フィックスバック: 8.5.0-WS-WASSupplements-FP0000001-part2 ➔ 8.5.0-WS-WASSupplements-FP0000001-part2 for distributed platforms. この Fixに関連する製品および製品群の推奨コメントの 追加の情報* 閲覧	2012/10/29
☐ 22. フィックスバック: 8.5.0-WS-WASSupplements-FP0000001-part1 ➔ 8.5.0-WS-WASSupplements-FP0000001-part1 for distributed platforms. この Fixに関連する製品および製品群の推奨コメントの 追加の情報* 閲覧	2012/10/29
☐ 23. フィックスバック: 8.5.0-WS-WAS-OS390-FP0000001 ➔ IBM WebSphere Application Server Fix Pack 8.5.0.1 for zOS platform. この Fixに関連する製品および製品群の推奨コメントの 追加の情報* 閲覧	2012/10/29
☐ 24. フィックスバック: 8.5.0-WS-WAS-FP0000001-part2 ➔ IBM WebSphere Application Server Fix Pack 8.5.0.1 for distributed platforms. この Fixに関連する製品および製品群の推奨コメントの 追加の情報* 閲覧	2012/10/29
☐ 25. フィックスバック: 8.5.0-WS-WAS-FP0000001-part1 ➔ IBM WebSphere Application Server Fix Pack 8.5.0.1 for distributed platforms. この Fixに関連する製品および製品群の推奨コメントの 追加の情報* 閲覧	2012/10/29

2. Fix Pack ファイルのダウンロード・ウィンドウが表示されますので任意のディレクトリーに保管します。

- WAS V8.5 の Fix Pack ファイルは、Zip 形式で提供されています。
(例: 8.5.0-WS-WAS-FP0000001-part1.zip)

3. Zip ファイルを解凍して、repository.config ファイルがあることを確認します。Part1 と Part2 は同じディレクトリー内に解凍します。

以上で Fix Pack のダウンロードは完了です。

次のステップでは、導入する Fix を指定する際に、この repository.cofing を指定します。

4-b. Fix Pack のインストール

●インストールを行う前の注意事項/推奨事項

1. 導入前にすべての WAS, IHS が停止していることを確認してください。
また、WAS 以外で稼働している java プロセスについても停止する必要があります。
2. AIX 環境では不要なライブラリをアンロードするため、root で slibclean を実行してください。
3. ファイルシステムのスペースに不足がないことを確認してください。
 - ・ [AIX] : /tmp、/usr に各々約 600M
 - ・ [Linux および AIX 以外の UNIX ベースのプラットフォーム] : /tmp、/opt に各々約 600M
(上記のプラットフォームにおける /usr、/opt 配下に必要とされるスペースは WAS のインストール・ディレクトリーに依存します。インストール・ディレクトリーを変更している場合は、そのファイルシステムのスペースを確保してください。)
 - ・ [Windows] : インストールを実行するディスクに約 1.2GB
 - ・ バックアップ・ファイル用として、バックアップ・ディレクトリーに 1~1.7GB (Fix Pack と同じサイズ)
4. IBM Java SDK の Fix Pack は、制限のないポリシー・ファイルと cacerts ファイルを上書きする可能性があります。Fix Pack を適用する前に、制限のないポリシー・ファイルと cacerts ファイルをバックアップして、これらのファイルを Fix Pack の適用後に再配置します。これらのファイルは <WAS_ROOT>%java%re%lib%security ディレクトリーにあります。
5. テスト環境下での適用確認を 実行してからの本番環境での適用を推奨します。
6. Fix 適用前に Back-up などを取り、問題発生時にすばやく対処できるよう対策をとることを推奨します。

1. 導入済みの IBM Installation Manager を起動します。IBMIM.sh(exe)コマンドを実行し、IBM Installation Manager を起動し、「更新」をクリックします。

■ Unix・Linux の場合

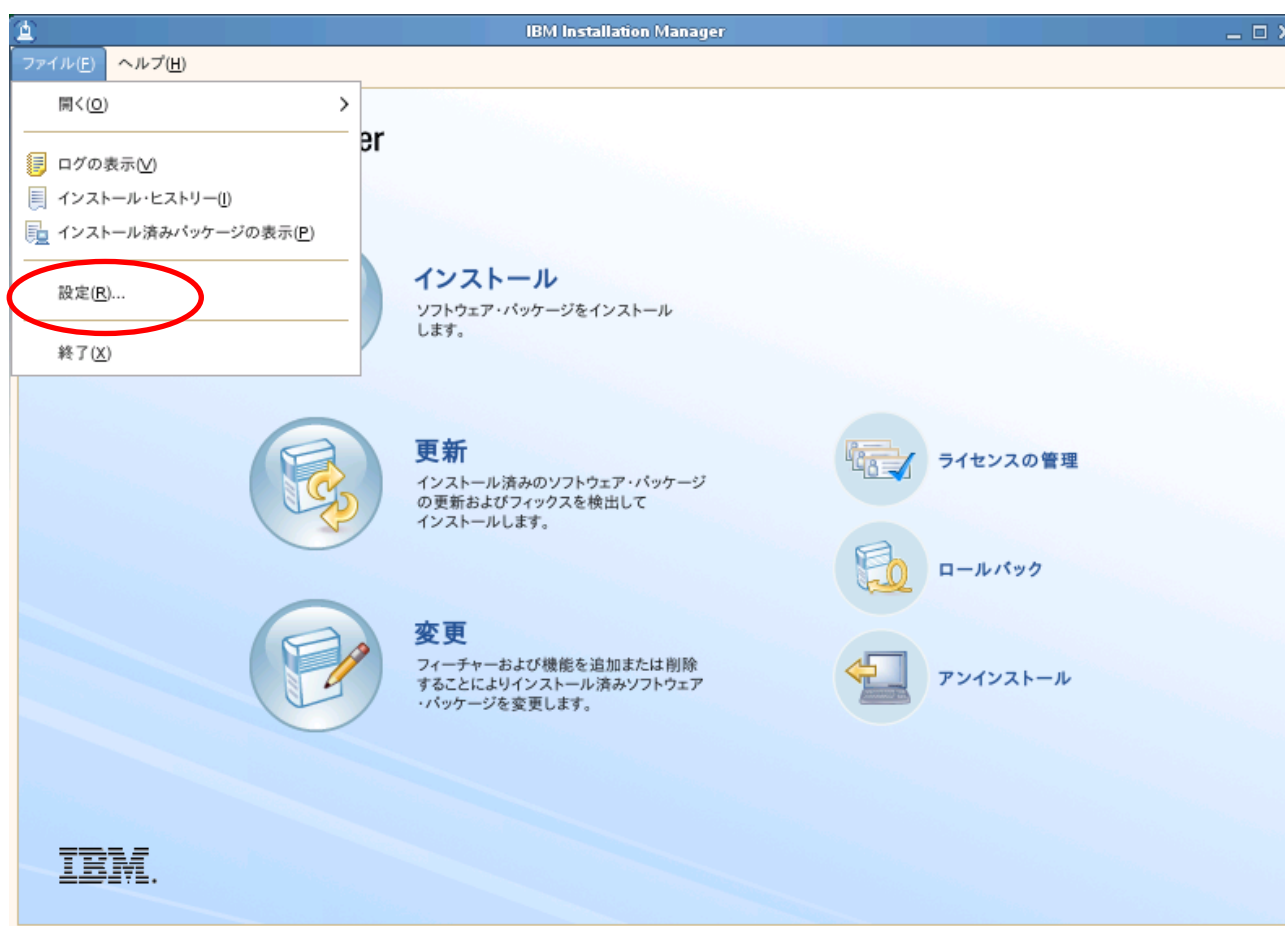
```
# cd <IBM Installation Manager のインストール・ディレクトリー>/eclipse  
# ./IBMIM.sh
```

■ Windows の場合

```
> cd <IBM Installation Manager のインストール・ディレクトリー>\eclipse  
> IBMIM.exe
```

- 「スタート」>「すべてのプログラム」>「IBM Installation Manager」>「IBM Installation Manager」から起動、またはインストール・ディレクトリーにある exe クリックによる起動も可能です。

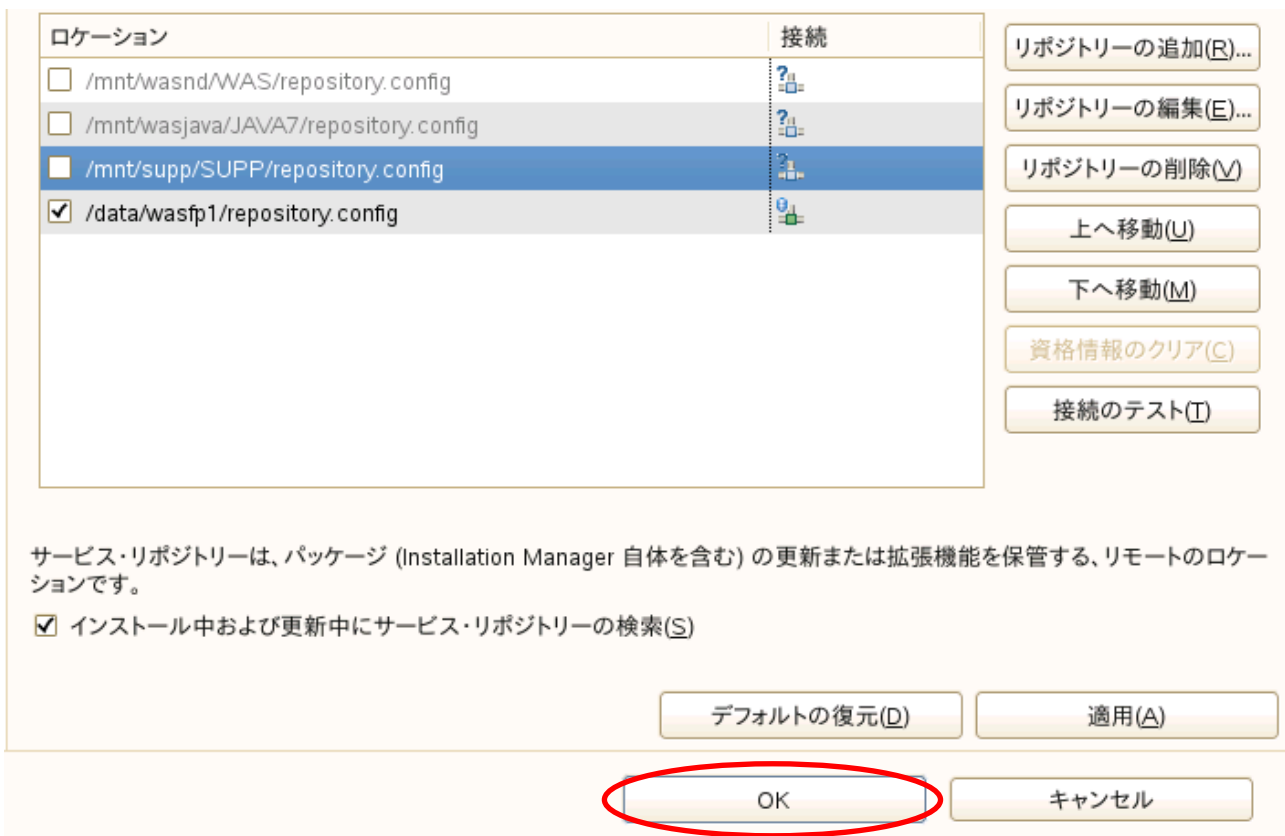
Fix Pack のリポジトリを指定します。「設定」をクリックします。



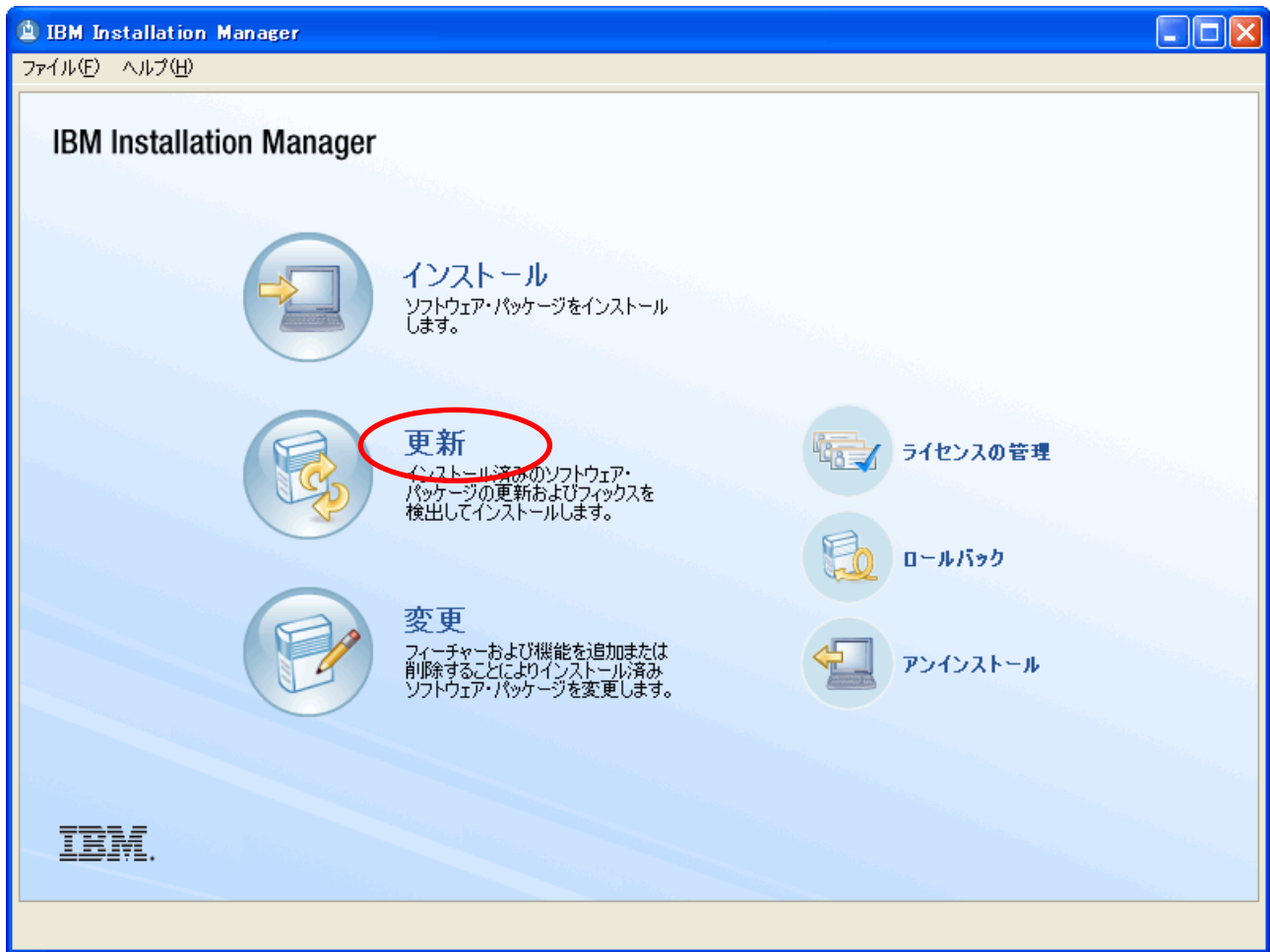
リポジトリの追加をクリックし、解凍した WAS 本体の Fix Pack 内の repository.config を指定して、OK をクリックします。



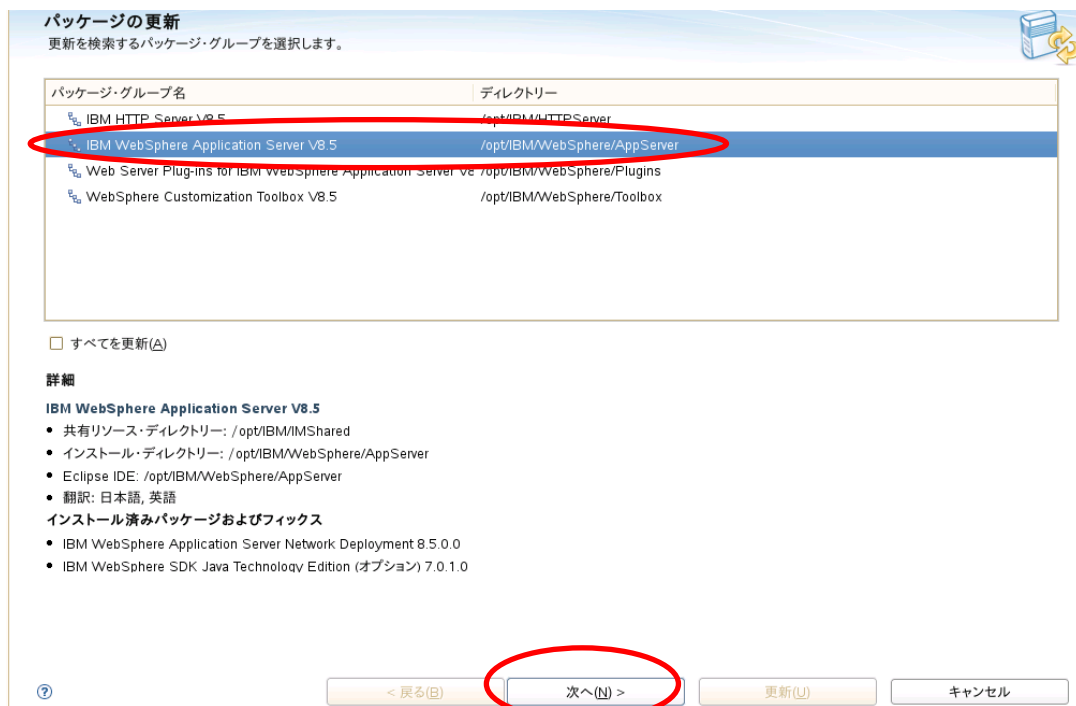
元の画面に戻るので、「OK」をクリックします。



更新をクリックします。



更新するパッケージの一覧が表示されます。「IBM WebSphere Application Server V8.5」または「IBM WebSphere Application Server Network Deployment V8.5」を選択して、「次へ」をクリックします。



適用可能な Fix が表示されます。ここでは「IBM WebSphere Application Server Network Deployment バージョン 8.5.0.1」を選択して、「次へ」をクリックします。

パッケージの更新
インストールする更新を選択します。使用可能なフィックスは次のページで選択できます。

更新	推奨	ベンダー
▼ IBM WebSphere Application Server V8.5		
☒ IBM WebSphere Application Server Network Deployment ☒ バージョン 8.5.0.1	✓	IBM
▼ IBM WebSphere SDK Java Technology Edition (オプション)		
☐ バージョン 7.0.2.0	✓	IBM

☒ 推奨項目のみを表示(W) 推奨を選択(S)

詳細
IBM WebSphere SDK Java Technology Edition (オプション) 7.0.1.0
 IBM SDK には、Oracle(TM) Java SE 7 アプリケーション・プログラミング・インターフェース (API) に準拠した、全機能搭載型の Software Development Kit (SDK) for Java が装備されています。IBM SDK Java Technology Edition を使用して、Java 7 API レベルの Java アプリケーションを開発、テスト、およびデプロイすることが可能であり、さらに、Java API レベルで「write once, run anywhere (一度書けばどこでも実行できる)」Java パラダイムを維持していくことができます。この SDK には、ユーザーが Java アプリケーションを実行できるようにするランタイム環境が含まれています。さらに、この SDK には、開発者が Java アプリケーションを作成できるようにする開発者ツールもあります。 [詳細情報...](#)

• リポジトリ: /var/ibm/InstallationManager/installRegistry/metadata

? < 戻る(B) 次へ(N) > 更新(U) キャンセル

さらに Liberty プロファイルの Fix の「8.5.0.1-WS-WASProd_WLP-DistOnly-IFPM75505 8.5.1.20121025_1021」を選択して、「次へ」をクリックします。

パッケージの更新
インストールするフィックスを選択します。

フィックス

フィックス	推奨	ベンダー
▼ ☒ IBM WebSphere Application Server Network Deployment 8.5.0.1		IBM
☒ 8.5.0.1-WS-WASProd_WLP-DistOnly-IFPM75505 8.5.1.20121025_1021		

詳細
8.5.0.1-WS-WASProd_WLP-DistOnly-IFPM75505 8.5.1.20121025_1021
 WEBSHERE APPLICATION SERVER LIBERTY PROFILE SERVER DOES NOT RESTART ON IBM I AFTER APPLYING FIX PACK 8.5.0.1 [詳細情報...](#)
 • リポジトリ: <https://www.ibm.com/software/repositorymanager/service/com.ibm.websphere.ND.v85/8.5.0.0>

▼ This fix resolves APARS:
 PM75505

? < 戻る(B) 次へ(N) > 更新(U) キャンセル

「使用条件の条項に同意」にチェックを入れて、「次へ」をクリックします。

パッケージの更新
以下の使用条件をよくお読みください。

パッケージの更新 更新 ライセンス フィーチャー 要約

プログラムのご使用条件

第1章 - 共通条項

お客様がライセンシー（使用許諾を受けた個人、会社、その他の法人）として本件プログラムをダウンロード、導入、複製、アクセス、「同意」ボタンをクリック、または使用することにより、本「プログラムのご使用条件」（以下「本使用条件」といいます。）に同意したものと見なされます。お客様がライセンシーの代行者として本使用条件に同意する場合、お客様は、ライセンシーに本使用条件を遵守させる全権限を有していることを表明および保証いただくものとします。本使用条件に同意いただけない場合、

* お客様は、本件プログラムのダウンロード、導入、複製、アクセス、「同意」ボタンのクリック、または使用をすることなく、かつ

* 直ちに未使用の記録媒体、文書およびライセンス証書をその調達元に返却することにより、これと引き換えに支払済料金の返金を受けることができます。本件プログラムをダウンロードした場合には、本件プログラムおよびそのすべての複製物を破壊してください。

1. 定義

使用許諾範囲 - ライセンシーが本件プログラムを実行または稼働することを許諾された特定の範囲をいいます。かかる範囲は、ユーザーの数、MSU (Millions of Service Units)、プロセッサ・バリュー・ユニット (以下「PVU」といいます。)、または IBM が特定するその他の使用許諾の範囲により規定されます。

IBM - International Business Machines Corporation またはその子会社をいいます。

ライセンス情報 (以下「LI」といいます。)- 本件プログラムに固有の情報および追加条件を提供する文章をいいます。本件プログラムの LI は、www.ibm.com/software/sla から入手することができます。LI は本件プログラムのディレクトリー内で (システム・コマンドなどを使用して確認します。) または本件プログラムに含まれている小冊子として提供される場合もあります。

本件プログラム - 原本およびそのすべての複製物 (全体複製か部分複製かを問いません。) を含めて、次のものをいいます。1) 機械で読み取りうる形の命令およびデータ、2) その構成要素、ファイルおよびモジュール、3) 視聴覚コンテンツ (イメージ、テキスト、録音、画像など)、ならびに 4) 関連するライセンス資料 (キーおよび付属文書など)。

ライセンス証書 (以下「PoE」といいます。)- ライセンシーの使用許諾範囲の証明をいいます。また、PoE は、本件プログラムに対する保証サービス、将来における本件プログラムの更新料金 (発表される場合) または販売促進用の特別な措置 (提供される場合) 等を受けるライセンシーの資格を確認し証明するものです。IBM がライセンシーに PoE を発行しない場合、IBM は、ライセンシーが本件プログラムを調達した調達元 (IBM または IBM ビジネス・パートナー) が発行した領収書原票、その他の販売記録を PoE とみなす場合もあります。その他の場合、本件プログラムの名称と取得した使用許諾範囲が限られていることが前提となります。

☒ 使用条件の条項に同意します(A)

☐ 使用条件の条項に同意しません(D)

日本語 すべて印刷(P)...

< 戻る(B) **次へ(N) >** 更新(U) キャンセル

Fix Pack を適用するフィーチャーを選択します。ここでは Liberty プロファイルを選択して、「次へ」をクリックします。

パッケージの更新
インストールするフィーチャーを選択します。

パッケージの更新 更新 ライセンス **フィーチャー** 要約

フィーチャー

IBM WebSphere Application Server Network Deployment 8.5.0.1

WebSphere Application Server Full Profile

☐ EJB 3.0 より前のモジュール用の EJBDploy ツール

スタンドアロンのシン・クライアント、リソース・アダプター、および組み込み可能コンテナ

☐ スタンドアロンのシン・クライアントおよびリソース・アダプター

☐ 組み込み可能 EJB コンテナ

☐ サンプル・アプリケーション

☒ **WebSphere Application Server Liberty Profile**

IBM WebSphere SDK for Java Technology Edition 6

☐ IBM 32-bit WebSphere SDK for Java

☐ 依存関係の表示(S)

すべて展開(E) すべて省略表示(C) 復元(R)

従属関係のため Installation Manager によって選択

詳細

IBM WebSphere Application Server Network Deployment 8.5.0.1

更新内容が表示されます。内容を確認して、「更新」をクリックします。

パッケージの更新

要約情報を確認してください。

パッケージの更新

更新

ライセンス

フィーチャー

要約

ターゲット・ロケーション

パッケージ・グループ名: IBM WebSphere Application Server V8.5
インストール・ディレクトリー: /opt/IBM/WebSphere/AppServer
共有リソース・ディレクトリー: /work/IBM/IMShared

更新

インストールするフィーチャー	削除するフィーチャー
IBM WebSphere Application Server Network Deployment 8.5.0.1 8.5.0.1-WS-WASProd_WLP-DistOnly-IFPM75505 8.5.1.20121025_10 IBM WebSphere Application Server Network Deployment 8.5.0.1	

ディスク・スペース情報

/

合計ダウンロード・サイズ: 564.95 MB
合計インストール・サイズ: 1.31 GB

合計使用可能スペース
2.80 GB

リポジトリ情報

戻る(B)

次へ(N) >

更新(U)

キャンセル

更新中になります。

更新

インストールするフィーチャー	削除するフィーチャー
IBM WebSphere Application Server Network Deployment 8.5.0.1 8.5.0.1-WS-WASProd_WLP-DistOnly-IFPM75505 8.5.1.20121025_10 IBM WebSphere Application Server Network Deployment 8.5.0.1	

ディスク・スペース情報

/

合計ダウンロード・サイズ: 564.95 MB
合計インストール・サイズ: 1.31 GB

合計使用可能スペース
2.80 GB

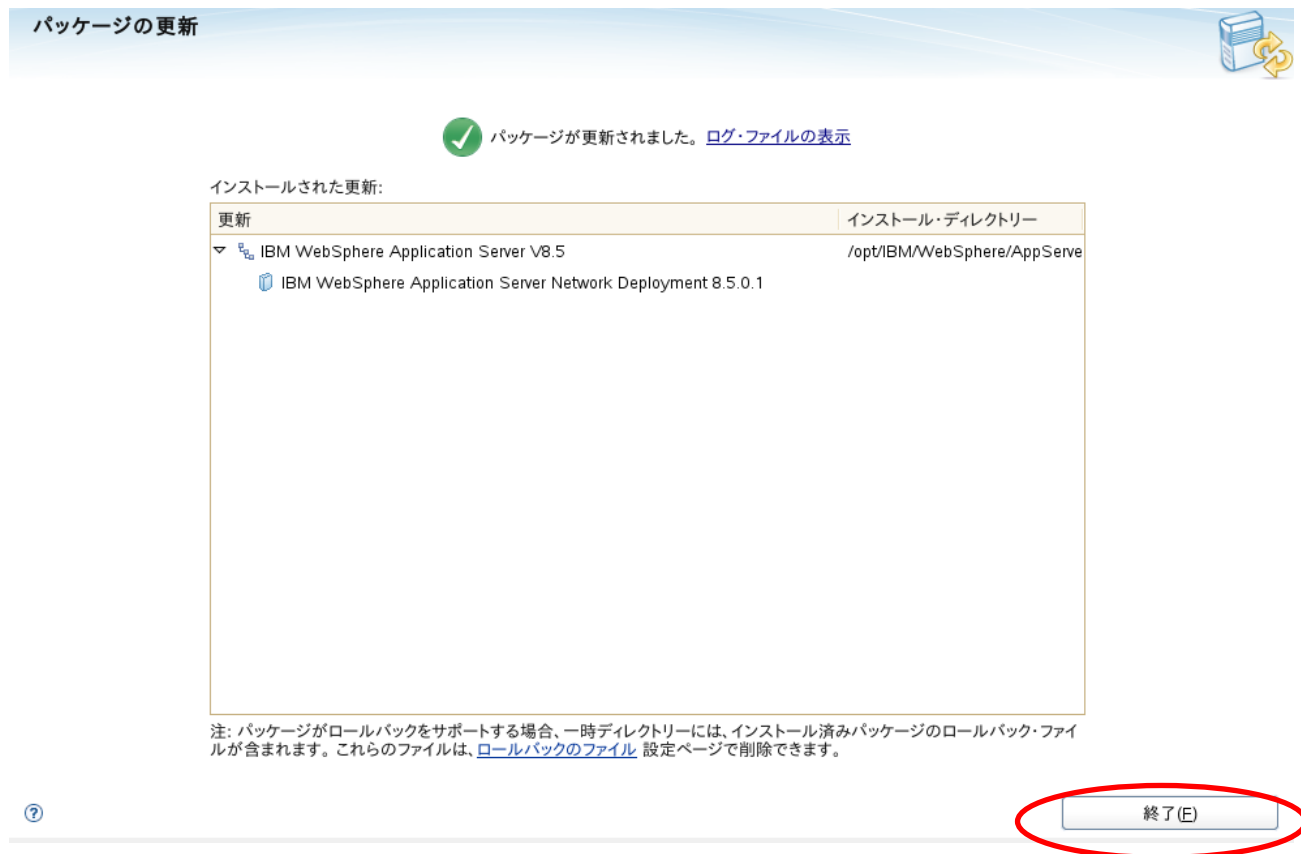
リポジトリ情報

更新中。

ダウンロードの一時停止(P)

キャンセル(C)

Liberty プロファイルへの Fix Pack 適用が完了しました。「終了」をクリックします。



以上で IBM Installation Manager を使用した Liberty プロファイルへの Fix Pack 適用は完了です。

5. Fix Pack のインストール方法③

ここでは Liberty プロファイルをアーカイブ形式で導入していた場合の Fix Pack 適用方法をご紹介します。基本的に新しいロケーションに Fix Pack アーカイブをインストールし、ユーザー・ファイルとサーバー構成データを移行する形式となります。同じロケーションの既存環境にインストールをすると、元に戻すことができないのでご注意ください。

5-a. Fix Pack のダウンロード

2. 手順 4-a の 2 までは同様です。

適用する Fix Pack が IBM Installation Manager のときとは異なり、JAR ファイルをダウンロードします。使用 OS に対応した Fix Pack をクリックするとダウンロードページに進みます。「今すぐダウンロード」をクリックします。ダウンロード対象は、wlp-xxx-8.5.0.1.jar を導入済みのエディションに応じて入手します。xxx はエディションを指します。

Distributed	WebSphere Application Server V8.5.0.1 Liberty Profile for Base	wlp-base-8.5.0.1.jar
Distributed	WebSphere Application Server V8.5.0.1 Liberty Profile for Network Deployment	wlp-nd-8.5.0.1.jar
Distributed	WebSphere Application Server V8.5.0.1 Liberty Profile for Developers IPLA	wlp-developers-ipla-8.5.0.1.jar
Distributed	WebSphere Application Server V8.5.0.1 Liberty Profile for Express	wlp-express-8.5.0.1.jar

1-1 件を表示 (全 1 件)

☒ 1.  フィックスバック: [wlp-base-8.5.0.1](#) ➔ 2012/10/29

WebSphere Application Server V8.5.0.1 Liberty Profile for Base

[この Fixに関連する製品および製品群の推奨コメントの](#) [追加の情報*](#)

[閲覧](#)

Fix Pack ファイルのダウンロード・ウィンドウが表示されますので任意のディレクトリーに保管します。

- WAS V8.5 Liberty プロファイル用の Fix Pack ファイルは、jar 形式で提供されています。
(例:wlp-base-8.5.01.jar)

次のステップでは、この jar ファイルを展開して Fix が適用された新しい環境を導入します。

3. 以上で Fix Pack のダウンロードは完了です。

5-b. Fix Pack のインストール

● 新しいロケーションにインストールします。

1. 手順 5-a でダウンロードした Fix Pack をターゲット環境にコピーします。
2. 以下のコマンドで JAR ファイルを展開します。

```
■ java -jar <downloaded_archive_location>/wlp-developers-8.5.0.1.jar
```

3. ライセンス条項に同意してインストールを続行します。

```
C:\>cd Liberty8501

C:\Liberty8501>java -jar C:\Liberty8501\wlp-base-8.5.0.1.jar
IBM WebSphere Application Server Version 8.5
を使用、抽出、またはインストールする前に、プログラムのご使用条件
の条項と追加のライセンス情報に同意する必要があります。以下の使用条件をよくお読み
ください。

--viewLicenseAgreement オプションを使用して、ご使用条件を個別に表示できます。

ここでライセンス条項を表示する場合は Enter、スキップする場合は 'x' を押してくだ
さい。 x
--viewLicenseInfo オプションを使用して、追加のライセンス情報を個別に表示できま
す。

ここで追加のライセンス情報を表示する場合は Enter、スキップする場合は 'x' を押し
てください。 x

以下で「同意する」を選択すると、使用許諾契約の契約条件（該当する場合は、IBM 以外
の契約条件を含む）
を受諾することになります。同意しない場合は、「同意しない」を選択してください。

[1] 同意する、または [2] 同意しないを選択: 1
```

4. インストール・ロケーションを選択します。既存環境とは異なる新しいロケーションを指定します。アーカイブ形式のインストールにおいては、既存環境と同じロケーションを選択して Fix Pack をインストールすることはできません。

```
製品ファイルのディレクトリーを入力するか、ブランクのままにしてデフォルト値を受け
入れます。
デフォルトのターゲット・ディレクトリー: C:\Liberty8501

製品ファイルのターゲット・ディレクトリー?
ファイルを C:\Liberty8501 に抽出しています。
すべての製品ファイルを正常に抽出しました。

C:\Liberty8501>
```

補足) ターゲット・ディレクトリーとして、既存のインストール・パスを指定した場合には、下記のように表示されインストールできません。

```
製品ファイルのディレクトリーを入力するか、ブランクのままにしてデフォルト値を受け入れます。
デフォルトのターゲット・ディレクトリー: c:¥temp

製品ファイルのターゲット・ディレクトリー? C:¥Liberty
既存のディレクトリー: C:¥Liberty¥wlp

c:¥temp>
```

● ユーザー・ファイルとサーバー構成データを移行します。

5. Liberty プロファイルではユーザーが生成したコンテンツとサーバー構成データは以下の 2 つのロケーションに保管されます。
 - ・ WLP_USER_DIR: 共用リソースを含むサーバー構成ファイルのディレクトリーを示す環境変数
 - ・ WLP_OUTPUT_DIR: ログなど、サーバーが生成したリソースのディレクトリーを示す環境変数
6. WLP_USER_DIR をシステム内で設定している場合、新しいランタイムは引き続きそのロケーションを使います。バックアップをとるには WLP_USER_DIR が参照しているディレクトリーを、ファイルシステム上の別のロケーションへコピーします。既存環境を保護するには WLP_USER_DIR を新しくインストールした環境を参照するように変更します。
7. WLP_USER_DIR が設定されていない場合、サーバー構成と共用リソースはインストール・ディレクトリー直下にある usr ディレクトリーに保管されます。
8. WLP_OUTPUT_DIR をシステム内で設定している場合、新しいランタイムは引き続きそのロケーションを使うので、古いログが上書きされます。古いログを保存するには WLP_OUTPUT_DIR 変数をアップデートするか変数定義を解除(unset)します。
9. WLP_OUTPUT_DIR が設定されていない場合、デフォルトのロケーションはサーバーのルート・ディレクトリー(例:<Liberty8501>/usr/servers/<サーバー名>)になります。新しい環境が新しいロケーションにインストールされる場合は、各環境の usr/servers/<serverName>/logs ディレクトリーにログが出力されるのでアップデートは不要です。

● 新しいサーバーを開始します。

10. 既存環境を上書きした場合は、最初に Liberty プロファイルサーバーを起動する際に、--clean オプションをつけます。clean オプションは最初の 1 回のみ使い、次の起動からは使いません。

```
■<liberty_VX+(新しくインストールした Liberty)>/bin/server start -clean
```

11. 既存環境を上書きしていない場合は、下記のコマンドを実行してサーバーを開始します。

■<liberty_root+>/bin/server start <server_name>

```
C:\Liberty8501\wlp\bin>server start server1  
サーバー server1 が始動しました。  
C:\Liberty8501\wlp\bin>
```

以上でアーカイブ形式による Liberty プロファイルへの Fix Pack 適用は完了です。

6. Fix Pack インストール後の確認

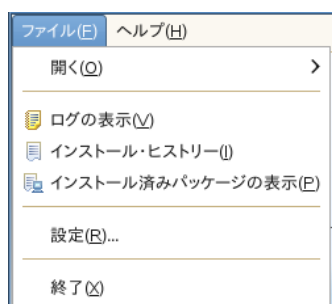
下記に、WAS V8.5 Liberty プロファイルでの Fix Pack 適用成否の確認方法をご紹介します。

1. IBM Installation Manager から導入した場合のファイルから確認する方法

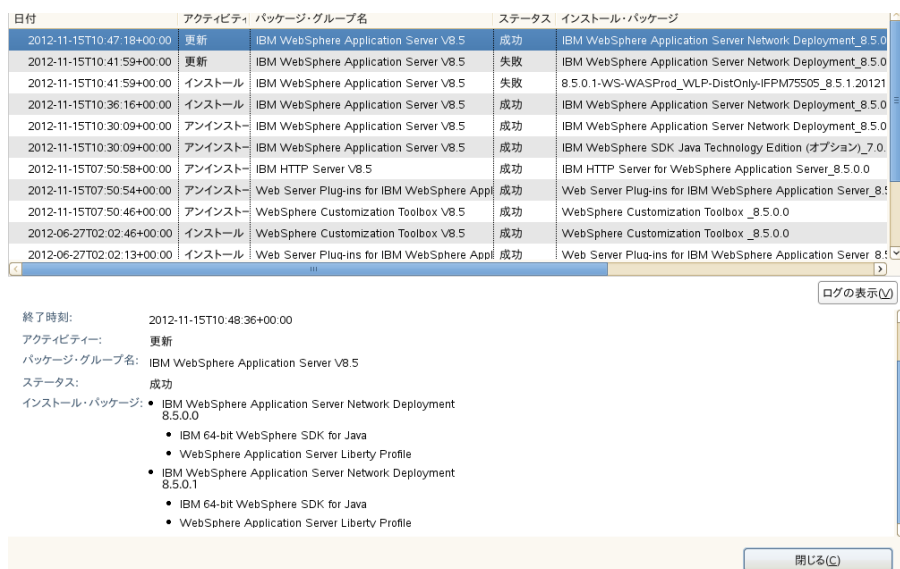
- インストール済みの製品一覧
<IM_DATA_ROOT>/installed.xml
- インストール履歴
<IM_DATA_ROOT>/histories/製品名/history.xml

IBM Installation Manager から導入した場合、GUI から確認する方法

- 「ファイル」→「インストール・ヒストリー」をクリック



- インストール・ヒストリーの一覧



アーカイブ形式で導入した場合のファイルから確認する方法

- <liberty_Root+>/lib/versions/WebSphereApplicationServer.properties
- Liberty プロファイルのバージョン確認の例

```
com.ibm.websphere.productId=com.ibm.websphere.appserver ↓
com.ibm.websphere.productOwner=IBM ↓
com.ibm.websphere.productVersion=8.5.0.1 ↓
com.ibm.websphere.productName=WebSphere Application Server ↓
com.ibm.websphere.productInstallType=Archive ↓
com.ibm.websphere.productEdition=BASE ↓
[EOF]
```

7. Fix Pack のアンインストール方法①

IBM Installation Manager から適用した Fix Pack は、以下の手順でアンインストールすることができます。
WAS V8.x からはロールバックという手順を踏むことで以前のバージョンに戻すことができます。

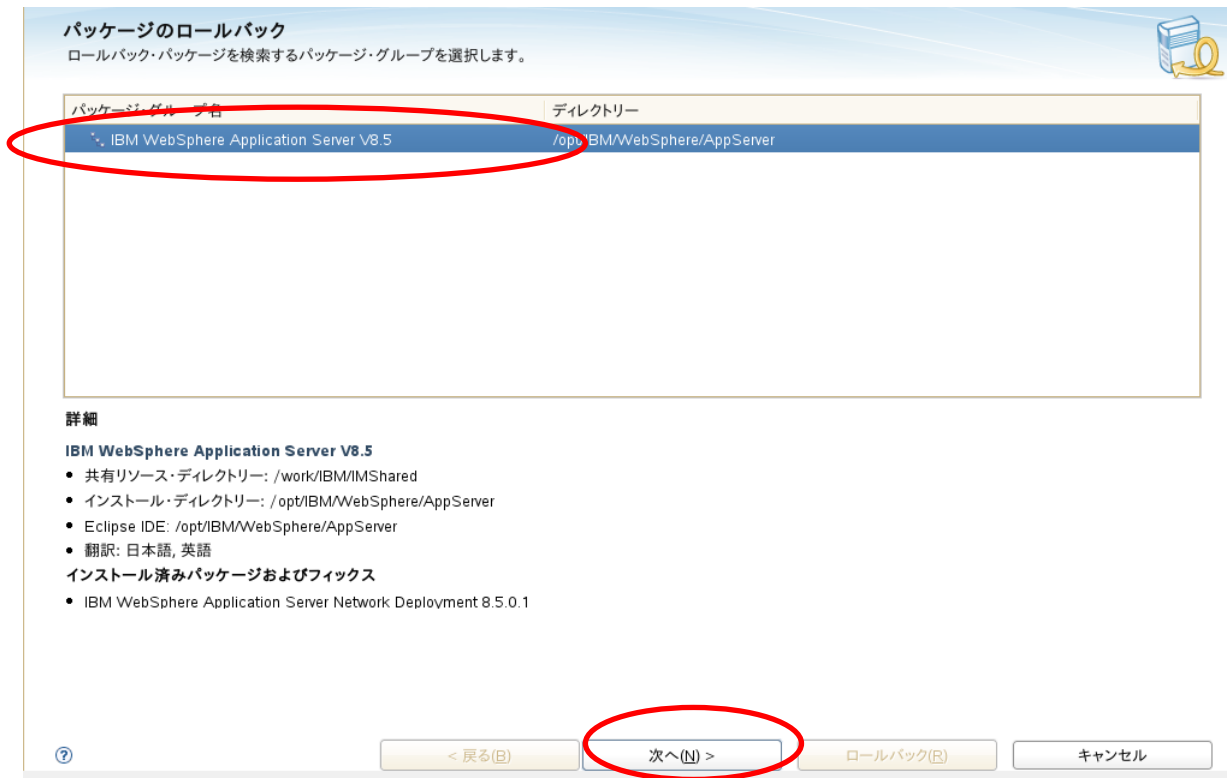
●アンインストール時の注意事項

また、すべての WAS, IHS が停止していることを確認してください。WAS 以外で稼働している java プロセスについても停止する必要があります。

1. IBM Installation Manager を起動し、「ロールバック」をクリックします。



2. ロールバックするコンポーネントを選択し、「次へ」をクリックします。



3. ロールバック先のパッケージを選択して、「次へ」をクリックします。

パッケージのロールバック

ロールバック先のパッケージを選択します。



パッケージのロールバック	依存関係	ベンダー
☒ IBM WebSphere Application Server V8.5		
☒ IBM WebSphere Application Server Network Deployment		
☒ バージョン 8.5.0.0		IBM

詳細

IBM WebSphere Application Server Network Deployment 8.5.0.0
IBM WebSphere Application Server Network Deployment は、動的 e-business 用のエンタープライズ Web サービス・ソリューションのデプロイメントに使用するための実動準備ができた Java Platform, Enterprise Edition (Java EE) 準拠のアプリケーション・サーバーです。本製品は、拡張 Web サービスおよびクラスター化機能を備えているため、WebSphere Application Server 基本エディションを超える上級レベルのアプリケーション・サービスを提供します。[詳細情報...](#)
• リポジトリ: /mnt/wasnd/WAS



< 戻る(B)

次へ(N) >

ロールバック(B)

キャンセル

4. 要約画面が表示されます。内容を確認し、誤りがなければ「次へ」をクリックします。ロールバックが開始されます。

パッケージのロールバック

要約情報を確認してください。



ロールバック

パッケージ

要約

ターゲット・ロケーション

パッケージ・グループ名: IBM WebSphere Application Server V8.5

インストール・ディレクトリー: /opt/IBM/WebSphere/AppServer

共有リソース・ディレクトリー: /work/IBM/IMShared

パッケージのロールバック

バージョン	パッケージ	パッケージ・グループ名
 バージョン 8.5.0.0	IBM WebSphere Application Server Net	IBM WebSphere Application Server V8.5

ディスク・スペース情報

詳細

合計使用可能スペース 2.85 GB

合計ダウンロード・サイズ: 0.0 KB

合計インストール・サイズ: 812.55 MB

リポジトリ情報

?

< 戻る(B)

次へ(N) >

ロールバック(R)

キャンセル

5. ロールバック中になります。

パッケージのロールバック

要約情報を確認してください。

ロールバック

パッケージ

要約

ターゲット・ロケーション

パッケージ・グループ名: IBM WebSphere Application Server V8.5

インストール・ディレクトリー: /opt/IBM/WebSphere/AppServer

共有リソース・ディレクトリー: /work/IBM/IMShared

パッケージのロールバック

バージョン	パッケージ	パッケージ・グループ名
バージョン 8.5.0.0	IBM WebSphere Application Server Net	IBM WebSphere Application Server V8.5

ディスク・スペース情報

詳細

/

合計使用可能スペース

2.85 GB

合計ダウンロード・サイズ: 0.0 KB

合計インストール・サイズ: 812.55 MB

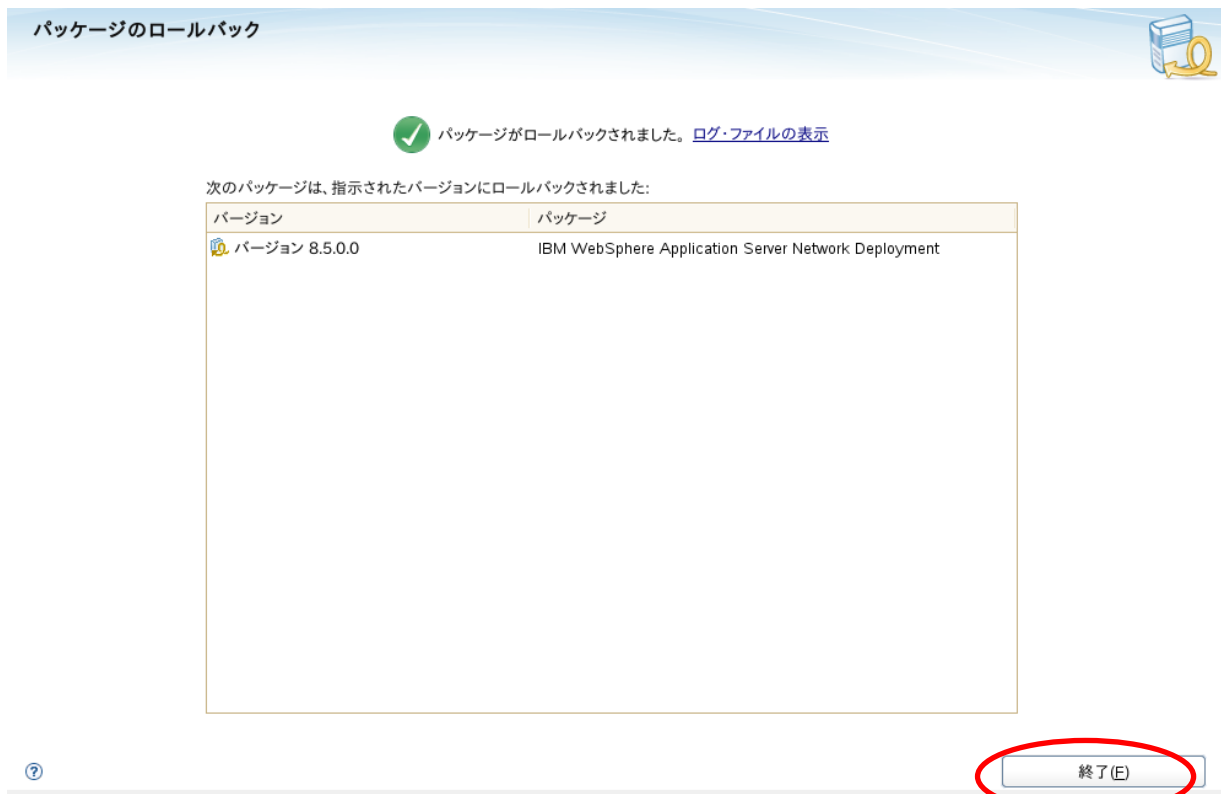
リポジトリ情報

ロールバック中。: [Running restore]

ダウンロードの一時停止(P)

キャンセル(C)

6. ロールバックが完了しました。「終了」をクリックします。



8. Fix Pack のアンインストール方法②

アーカイブ形式で適用した Fix Pack は、以下の手順でアンインストールすることができます。

1. サーバーが起動中の場合は、すべて停止します。

```
■ <liberty_root>/bin/server stop <server_name>
```

```
C:\Liberty8501\wlp\bin>server stop server1
サーバー server1 は停止しました。

C:\Liberty8501\wlp\bin>
```

2. ユーザー・データとサーバー構成ファイルを保管します。これらの方法については手順 5-b の 6 を参照してください。
3. Fix Pack が適用されたランタイムを削除します。
4. サーバーを開始します。

```
■ <liberty_root>/bin/server start <server_name>
```

```
C:\IBM\wlp\bin>server start server1
サーバー server1 が始動しました。

C:\IBM\wlp\bin>
```

以上でアーカイブ形式によって適用した Liberty プロファイルの Fix Pack のアンインストールは完了です。

9. Fix Pack アンインストール後の確認

手順 6 と同様です。

Fix Packを適用する前のバージョンにロールバックされていれば、正しくアンインストールされています。

```
com.ibm.websphere.productId=com.ibm.websphere.appserver ↓
com.ibm.websphere.productOwner=IBM ↓
com.ibm.websphere.productVersion=8.5.0.0 ↓
com.ibm.websphere.productName=WebSphere Application Server ↓
com.ibm.websphere.productInstallType=Archive ↓
com.ibm.websphere.productEdition= ↓
[EOF]
```

インストール・ヒストリー

日付	アクティビティ	パッケージ・グループ名	ステータス	インストール・パッケージ
2012-11-15T11:01:18+00:00	ロールバック	IBM WebSphere Application Server V8.5	成功	IBM WebSphere Application Server Network Deployment_8.5.0
2012-11-15T10:47:18+00:00	更新	IBM WebSphere Application Server V8.5	成功	IBM WebSphere Application Server Network Deployment_8.5.0
2012-11-15T10:41:59+00:00	更新	IBM WebSphere Application Server V8.5	失敗	IBM WebSphere Application Server Network Deployment_8.5.0
2012-11-15T10:41:59+00:00	インストール	IBM WebSphere Application Server V8.5	失敗	8.5.0.1-WASProd_WLP-DistOnly-IFPM75505_8.5.1.20121
2012-11-15T10:36:16+00:00	インストール	IBM WebSphere Application Server V8.5	成功	IBM WebSphere Application Server Network Deployment_8.5.0
2012-11-15T10:30:09+00:00	アンインストール	IBM WebSphere Application Server V8.5	成功	IBM WebSphere Application Server Network Deployment_8.5.0
2012-11-15T10:30:09+00:00	アンインストール	IBM WebSphere Application Server V8.5	成功	IBM WebSphere SDK Java Technology Edition (オプション)_7.0.
2012-11-15T07:50:58+00:00	アンインストール	IBM HTTP Server V8.5	成功	IBM HTTP Server for WebSphere Application Server_8.5.0.0
2012-11-15T07:50:54+00:00	アンインストール	Web Server Plug-ins for IBM WebSphere Appl	成功	Web Server Plug-ins for IBM WebSphere Application Server_8.5.0.0
2012-11-15T07:50:46+00:00	アンインストール	WebSphere Customization Toolbox V8.5	成功	WebSphere Customization Toolbox_8.5.0.0
2012-06-27T02:02:46+00:00	インストール	WebSphere Customization Toolbox V8.5	成功	WebSphere Customization Toolbox_8.5.0.0

ログの表示(V)

詳細

開始時刻: 2012-11-15T11:01:18+00:00
終了時刻: 2012-11-15T11:02:04+00:00
アクティビティ: ロールバック
パッケージ・グループ名: IBM WebSphere Application Server V8.5
ステータス: 成功
インストール・パッケージ: • IBM WebSphere Application Server Network Deployment 8.5.0.0